



氷室

宮坂静生

四方の山こゑをひそめる悲秋かな
切崖きりぎしに縋り氷室を守りゐたり
徴兵がなき世のよかり廃氷室
氷室址おひよう翼果よくかをつけはじめ
風穴に一と夜泊の菊の束
風穴に蚕種あづけし世の廃れ
冷房車より風穴の緊まりたり



子に罪のなし兜虫みんな逃げ
酔橘真青子は母が子か父の子か
山中の葡萄に袋みなかぶせ
足弱のほとけのために路刈られ
灯籠を組むに真白き手套穿はめ
施餓鬼会や姨捨山が突兀と
真夜ひよいと雷に打たれし子がもどる
くもの網睫毛に張られ昼寝覚
宵宮へ参りし暁に足が吊る